学校番号	1001

令和３年度　地理歴史 科

教科	地理歴史	科目	**日本史Ｂ**	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「詳説日本史　改訂版」（山川出版社）						
副教材等	「新詳日本史」（浜島書店）、自作プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象の前後関係、流れに思いをいたす。
・世界（特にアジア）の国々や諸地域の状況にも注意を払い、日本の歴史事象との関連を考える。
・歴史の流れのなかで現在の日本のあり方を位置づける。

2　学習の到達目標

・史資料に親しみ、歴史具体的な思考法を身につける。
・現代の諸課題を前近代の歴史的事象と関連づけて考察することができる。
・日本の歴史を世界史と関連づけて理解し現代を主体的に生きる主権者としての資質を養う。
・歴史的事象や歴史用語について、一定の概念的な理解を持てるように努める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的事象や社会的な諸関係に対する関心と課題意識を持ち、課題を意欲的に追究するとともに、国家・社会を形成する主権者としての責務を果たそうとする意欲があるかどうか。	現代の諸課題を歴史的観点から考察し、世界と日本社会の変化に関する科学的な認識をもとに冷静かつ公正な判断をくだせるか。また、その歴史の過程や結果を適切に表現できるか。	前近代を中心とする日本の歴史に関するさまざまな史資料から、有用な情報を選んだり読み取ったりできるか。それを図表などにまとめたりできるか。	前近代を中心とする日本の歴史についての基本的な史実や歴史用語・概念についての知識を、地理的条件や世界史と関連づけながら理解できるかどうか。
評価方法	レポート 授業でのやりとり	定期考査 授業でのやりとり	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 授業でのやりとり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
第1学期	第1章　日本文化のあけぼの	1. 人類の特徴と歴史の意味 2. 文化のはじまり―日本の旧石器文化 3. 新石器時代としての縄文時代 4. 農耕社会の成立―弥生文化 5. 古墳とヤマト政権	○	○		○	b. 人類の特徴といわれてきた、いくつかの指標について意見交換するが、いかに論理的に、あるいは根拠をもって各指標を説明したり論じたりできるか。 a.旧石器時代と縄文時代の遺物などの資料にもとづいて、時代の特徴をどれくらい想像できるか。 d.農耕社会の成立と、集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積のあらわれ方、習俗や墓制の推移などが、どう連関するのかを、具体的に理解できるかどうか。 b.各時期の古墳の諸特徴や文献史料から、小国やヤマト政権の内実をどのように描けるか。	レポート・発表 授業でのやりとり
	第2章　律令国家の形成	1. 飛鳥の朝廷―遣隋使の時代 2. 律令国家への道―大化改新～壬申の乱 ※中間考査の実施、ノート提出		○	○	○	d.遣隋使・留学生らの派遣や冠位十二階・憲法十七条制定のねらいを総合的に考察できるか。 c.飛鳥文化の具体的特徴からその世界性ないしエキゾチシズムを考察できるか。 b.いわゆる「大化改新」や、古代最大の内戦となった壬申の乱がもつ歴史的意義を論理的に説明できるか。	授業でのやりとり 定期考査 ノート点検

		3. 平城京の時代―律令制度と奈良時代の内政・外交 4. 天平文化―国史・万葉集・国家仏教・仏教美術 5. 平安王朝の形成―平安遷都・東北遠征と政治改革 6. 弘仁・貞観文化―最後の唐風文化と平安仏教・密教美術	○	○		○	a・b.図版・資料を活用して、平城京の特色を具体的に考えかつ説明できるか。 b.歴史の大きな流れのなかで遣唐使の果たした役割を考察し、説明することができるか。 d.天平文化の世界性とともに貴族文化の独自性が具体例をもって理解できるか。 d.平安初期に律令体制の再建・修正が進んだことを示すキー概念が理解できるか。 d.唐文化の消化とその新たな展開（国風化）が理解できるか。	レポート 授業でのやりとり
第1学期（つづき）	第3章 貴族政治と国風文化	1. 摂関政治―藤原北家の発展、藤原道長・頼通の時代 2. 国風文化―国文学、浄土信仰の広がり、国風美術、貴族の生活 ※期末考査の実施、ノート提出		○	○	○	d.藤原氏発展の諸条件の相互関連性を整理できるか。 b.摂関政治の構造的特徴、その強さと脆さの要因を論理的に考察できるか。 c.中国モデルに固執しない新しい「国風」貴族文化を長い歴史のなかで位置づけできるか。	授業でのやりとり 定期考査 ノート点検
第2学期	第3章（つづき）	3. 地方政治の展開と武士―国司制の変質、寄進地系荘園の発達と国衙領、武士の成長、源氏の進出、奥州藤原氏	○	○		○	a・b・d 11世紀以降、公領の変質や寄進地系荘園の拡大が進んだこと、そして公領・荘園の対立から必然的に武士団が成長することなどを多面的に関連づけて考察することができるか。	レポート 授業でのやりとり
	第4章 中世社会の成立	1. 院政と平氏の台頭―延久の荘園整理令、院政の開始、院政期の社会、保元・平治の乱、平氏政権、院政期の文化 2. 鎌倉幕府の成立―源平の争乱、鎌倉幕府と朝廷 3. 武士の社会―北条氏の台頭、承久の乱、執権政治、武士の生活、武士の土地支配 ※中間考査の実施、ノート提出		○	○	○	b.院政の特質と矛盾を論理的に説明できるか。 c.保元・平治の乱の歴史的意義を史料を通じて把握できるか。 b.鎌倉幕府の武家政権としての独自性を、武士団の特質と関連づけて説明できるか。 c.なぜ源頼朝のもとに武士が結集したのか、そのヒントを史資料のなかから見つけられるか。 d.承久の乱の歴史的意義について、地頭・御家人層の土地支配権拡大と結びつけて理解することができるか。	授業でのやりとり 定期考査 ノート点検

	第4章（つづき）	4．蒙古襲来と幕府の衰退―蒙古襲来、得宗専制政治、琉球とアイヌの動き、商品経済の発達、幕府の衰退 5．鎌倉文化―鎌倉仏教、中世文学のおこり、芸術の新傾向	○	○		○	c.宋・元の歴史を踏まえつつ、元寇の世界史的な視点から把握と日本史上の理解を総合できるか。 b.集約的多毛作型農業の成立や宋銭の流入により貨幣経済が進展したことを歴史の流れのなかで捉えられるか。 d.元寇の非常時体制の日常化が得宗専制につながることを理解できるか。 a.武士・庶民の台頭が新たな宗教、文学・史論、絵巻物や彫刻をうみ出したことを理解できるか。	レポート 授業でのやりとり
第2学期（つづき）	第5章 武家社会の成長	1．室町幕府の成立―鎌倉幕府の滅亡、建武の新政、南北朝の動乱、守護大名と国人一揆、室町幕府、東アジアとの交易（勘合貿易等）、琉球と蝦夷ヶ島 ※期末考査の実施、ノート提出		○	○	○	b.鎌倉幕府の崩壊と御家人制解体との連関を構造的に把握できるか。 b.南北朝の動乱が長期化・全国化した要因をその政治的対立構造の特質としてつかめるか。 d.倭寇が活動したことの意味や、倭寇問題が日明貿易・日朝貿易の開始と結びついているという連関が理解できるか。 c.琉球王国の成立を東アジア世界の変容を考えるなかで深く捉えることができるか。	授業でのやりとり 定期考査 ノート点検

第3学期	第5章（つづき）	2. 室町幕府の衰退と庶民の台頭―惣村の形成、幕府の動揺と土一揆、応仁の乱と国一揆、農業の発達、商工業の発達、 3. 室町文化―南北朝文化、北山文化、東山文化、庶民文芸の流行、文化の地方普及 4. 戦国大名の登場―戦国時代の全般的様相、戦国大名の分国支配、都市の発展と町衆 ※学年末考査の実施、ノート提出		○	○	○	d.産業・経済の発達や庶民の社会的力量の増大と、それに裏付けられた庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になったことが理解できるか。 b.中世には、自治村落だけでなく、自治都市や港町が発達したことの意味を多面的に考察できるか。 c.東アジア世界との交流と庶民台頭のなかで、武家文化と公家文化の融合や庶民文化の発達がみられたことを把握できるか。 b.社会経済的な発展と下剋上との関連、戦国大名と従来の領主との違いを把握できるか。 b.地理的条件に念頭に、各都市それぞれの特色について説明できるか。	授業でのやりとり 定期考査 ノート点検

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。